



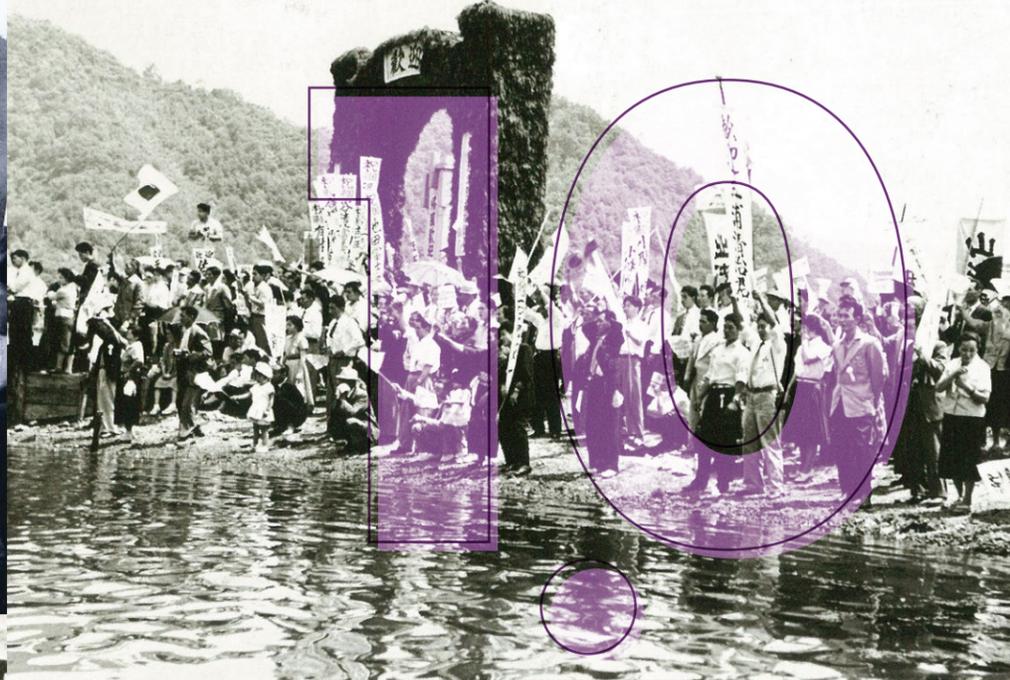
世界各国の博物館関係者が集う国際博物館会議（ICOM）京都大会の体験型見学会「エクスカーション」に参加した40人が、9月6日に本市を訪問。ドイツやロシア、オランダなど各国の参加者が、引揚記念館や赤れんが博物館、田辺城資料館などで、視察や市民との交流などを通じて舞鶴の歴史や貴重な資料への理解を深めました。

引揚記念館では、同館のこれまでの歩みや所蔵資料を説明。また、シベリア抑留者である安



田重晴さん（98歳）から実際のシベリア抑留体験談を話してもらいました。参加者は「シベリアからどのようなものを持って帰ってきたのか」「今のロシア人についてどう思うか」など質問しました。また、安田さんは「平和が一番、何があっても戦争だけは絶対にいけない」と話し、抑留体験者だからこそその強い訴えに参加者らは熱心に聞き入っていました。

ICOM 京都大会の関係者が舞鶴を視察  
世界各国の博物館関係者が引き揚げの史実学ぶ



10月7日は  
引き揚げの歴史が  
始まった日



日本博物館協会が優れた博物館の活動レポートに贈る「博物館活動奨励賞」に引揚記念館の報告が選ばれました。

この取り組みは、同協会が博物館関係者の資質向上と意識高揚を目的に優れた活動を選考するもの。今回受賞したレポートは「地方都市の博物館と地域との協働による取り組み〜次世代への継承から次世代による継承へ」。引き揚げとシベリア抑留の史実の継承と恒久平和への願いを発信するという本市の使命を果たすた

地域と協働での史実の継承に向けた取り組みが評価  
引揚記念館が博物館活動奨励賞に



め、さまざまな有識者の支援を受け、市民との協働を進めてきた市直営化後の同館の歩みを中心に紹介。引揚者の高齢化による史実の風化といった課題に対して、世界記憶遺産登録への挑戦や市民と連携した語り部活動。また、資料の保存や体験を重視した次世代型の施設へのリニューアル。そして全国巡回展やウズベキスタンの抑留者資料館との交流など、世界的に重要な記憶を地域と協働で未来へと引き継ぐ取り組みの数々が評価を受けました。

10.7平和の鐘を鳴らそう



引き揚げの日である10月7日には、引揚記念館に設置されている引揚船「高砂丸の時鐘」のレプリカである「平和の鐘」を特別に開放します。

「舞鶴引き揚げの日」を発信しよう

舞鶴引き揚げの日の「3年間で市民認知度100%」を目指すため、事業所・団体などでホームページや機関誌に記事を掲載するなど発信事業に協力していただける事業所・団体や市民を募集しています。

▶詳しくは、同館(☎68・0836)へ。



10月7日は「舞鶴引き揚げの日」  
昨年、世界の恒久平和と次世代への継承を願い、引揚船第一船「雲仙丸」が舞鶴に入港した10月7日を「舞鶴引き揚げの日」とする条例を制定しました。

舞鶴市は、第二次世界大戦後の1945（昭和20）年から、13年間にわたり、66万余人の引揚者と1万6千柱の遺骨を迎え入れ、引揚船が入港するたびに引揚者の帰還

を、まちをあげて心からお迎えしました。また、1988（昭和63）年に開館した引揚記念館を中心に、体験者や市民の皆さんと一緒に引き揚げとシベリア抑留の史実を継承すると共に、平和の尊さを国内外に発信し続けています。2015（平成27）年10月には市が所有する引揚関連資料が世界的に重要な記録物としてユネスコ世界記憶遺産に登録されました。

《引揚記念館》